

有島記念館

題字は有島武郎令弟・里見弴(作家)の揮毫

ARISHIMA TAKEO MEMORIAL MUSEUM

も く じ

- ① 平成27年度の話題
- ③ 平成27年度活動報告
- ⑦ 平成27年度資料収蔵報告
収蔵資料紹介
- ⑧ 学芸部門活動報告
出版物等の発行
作品・資料の貸し出し
平成27年度職員動向
事務室だより

平成27年度の話題

有島記念館若手作家展Ⅱ

Is Shibeshi

『新見垂矢子作品展』

『山下隆博写真展』

「吹雪の日／風の海」
を開催しました

当館が顕彰する有島武郎は、大正期を代表する白樺派の小説家であるとともに、後期印象派の複製絵画やロダンの彫刻作品を札幌で展示紹介するなど、明治期の北海道における美術史にも大きな足跡を残しています。また、有島の「生れ出づる悩み」の主人公のモデルとなった木田金次郎は、有島の励ましを受けながら、郷土・岩内の自然と対峙して画業をきわめていきます。当館では、このような武郎の美術振興や若手芸術家を応援した精神を継承し、中高生を対象とした「有島武郎青少年公募絵画展」などにおいて芸



新見垂矢子作品展

術活動の発表機会を提供してきました。平成25年度に開催した「有島記念館若手作家展」に引き続き、今回は「同Ⅱ」として、北海道後志管内出身の若手芸術家2名に焦点を当てました。新見垂矢子氏は、1979(昭和54)年に当館が立地するニセコ町に隣接する蘭越町に生まれ、北海道岩内高校在学中には当館主催の「有島武郎青少年公募絵画展」に出品しています。北海道教育大学卒業後は、道展会友として現在まで精力的に創作活動を行っています。



山下隆博写真展

会期中には、新見、山下両氏を招いたギャラリートークを3月22日に開催し、

自作について語っていただきました。また、同時に「同Ⅲ」として、道内を軸に活動する若手芸術家に焦点を当てた「平成の「生れ出づる悩み」2014」展も開催しました。

鮫島惇一郎植物画展

「北ぐにの花絵本」の開催

ニセコ町は自然環境に恵まれ、豊かな植物環境を有しています。このような環境により興味や理解を深めていただくために、札幌在住の植物学者・鮫島惇一郎氏が北海道の植物を描き、現在在滝川市美術自然史館に収蔵されている植物画約110点の作品を紹介する「北ぐにの花絵本」展を、6月20日から10月12日に開催しました。



企画展初日には、鮫島氏をお招きして「北ぐにの草花と私」という題目で、これまでのご自身と植物やニセコ町との関

わりをお話いただく講演会を開催しました。このほか会期中には、当館周辺に繁茂する植物と有島農場の遺構「有島灌漑溝」などの産業遺産を見学する観察会、当館周辺の植物を使った草木染体験、植物を描くワークショップといった各種普及事業も開催しました。



鮫島惇一郎さんによる講演

有島記念館ブックカフェ 「有島記念館×高野珈琲店」開業

羊蹄山とニセコアンヌプリを望むことができる当館内「アートホール」に、9月1日、ブックカフェ「有島記念館×高野珈琲店」が開業しました。これはニセコ町有島地区でカフェ「高野珈琲店」を経営する高野大一郎氏から、有島記念館がニセコ町民に気軽に足を運んでもらえる場になって欲しいという提案があり、平成24年度から当館と開業に向けての話し合いが進められていました。



このカフェには札幌在住の木工作家・



高橋三太郎氏制作の椅子やテーブルが備えられ、高野珈琲店が自家焙煎したコーヒーやモカソフクリームを味わいながら、有島作品をはじめ、北海道の文学や歴史、観光情報、アートに関する文献などを楽しむことができます。

平成28年11月からは、当カフェオリジナルブレンドの珈琲豆「生れ出づる悩み」と「一房の葡萄」も発売されています。また、平成28年1月には札幌の出版社「ぶらんとマガジン社」から、北海道の観光情報誌「HO」のバックナンバー一式の寄贈を受け、道内外からの観光客の方に好評を得ています。カフェのみの利用は無料で、今後は外部組織と連携して、カフェでの読書会や座談会、ミニコンサートなどの開催を検討しています。

ニセコ町埋蔵文化財の 再整理等の事業

ニセコ町教育委員会及び有島記念館と、高倉純氏（北海道大学埋蔵文化財調査センター）と鈴木健治氏（北海道大学国際本部）は、平成26年度よりニセコ町内で発掘された旧石器資料の再整理事業や町内にある「西富遺跡」と「富士見遺跡」の再検討作業をすすめてきました。その成果は、平成26年度末に発刊された「ニセコ町西富遺跡・富士見遺跡の旧石器―再整理作業報告書―」（高倉純・鈴木健治編、ニセコ町教育委員会発行）として結実しました。また、両氏を代表として平成27年11月2、3日には西富遺跡において試掘を行いました。その結果、昭和20年代に確認されて以降は所在地が定か

ではなかった環状列石（ストーンサークル）が再発見されています。両氏による調査は平成28年度以降も実施される予定で、発掘現場の見学会などを計画しています。

有島武郎認知度調査の実施

有島記念館と岩内町・木田金次郎美術館では、白樺文学館元オーナー・佐野力氏の支援を頂き、有島武郎及び木田金次郎の全国的な認知度調査を平成27年11月に実施しました。調査は、インターネット調査会社に登録する全国約1,000人に対して、「有島武郎に関する設問」、「有島記念館に関する設問」、「画家・木田金次郎に関する設問」、「読書傾向を聴取する設問」など6分野にわたり、全17問を設定して実施しました。

その結果、有島武郎を知っているか否かの設問では、全体で「知っている」が35・4%、「知らない」が64・6%でしたが、年代別にみると、「知っている」の割合が高いのは60歳以上のみであり、それ以下の年代では「知らない」が上回る結果となっています。また有島作品を読んだことがあるか否かの設問では、全体で「読んだことがある」が13・1%、「読んだことがない」が86・9%、年代別では「読んだことがある」の割合の方が高い60歳以上を除き、8割から9割が読んだことがないという結果が出ました。以上のような結果から、有島武郎は忘れ去られつつある作家という現状が浮かび上がってきました。

作家は没しても、作品が読み継がれることで生きていきます。そのためには作家を顕彰している館が、たえず作家や作品の現代的意義を見出し、広くそれを発信していくことが必要となります。このような結果を受けて、佐野力氏より両作家の知名度向上のための事業に充てる資金として当館に300万円、木田金次郎美術館に200万円のご寄付を頂きました。今後、木田金次郎美術館をはじめ、大学、他の文化施設と共同で事業を行う予定です。調査費用ならびに事業資金をご寄付くださった佐野力氏に心より感謝申し上げます。

「平成27年度活動報告

1、展示事業

※敬称略

(1) 常設展示室

来場者数 10、455人

〔平成27年4月1日～平成28年3月31日〕

(2) 特別展示室

有島記念館若手作家展Ⅱ

「Shiribeshii」

「新見亜矢子作品展」

「山下隆博写真展」

「吹雪の日／風の海」

期間 平成27年3月21日～6月7日

来場者数 1、866人

(3月31日までの入場者…174人、

4月1日以降の入場者…1、692人)

鮫島惇一郎植物画展「北ぐにの花絵本」
期間 平成27年6月20日～10月12日
来場者数 5、868人

第27回有島武郎青少年公募絵画展

期間 平成27年10月31日～11月15日

来場者数 685人

応募点数 374点

入賞・入選点数 110点

審査員・審査委員長／佐藤友哉(札幌

芸術の森美術館館長)、審査員／佐藤

光雄(全道展会員)、羽山雅倫(全道

展会員)、西村明美(道展会員)

※小ギャラリーも使用

有島武郎賞

「ナマモノ」高見 萌

(北海道札幌啓成高等学校2年)



有島記念館若手作家展Ⅳ 平成の「生れ出づる悩み」コンテスト入選者より
駒澤千波展「そらのもり」

期間 平成27年12月19日～平成28年6

月12日

来場者数 919人

(3月31日までの入場者数)



有島記念館若手作家展Ⅴ 平成の「生れ出づる悩み」コンテスト入選者より
石垣渉水彩画の世界 身近にある景色

期間 平成28年3月12日～6月12日

来場者数 458人

(3月31日までの入場者数)



(3) 常設展示室内小部屋(2階)

しりべしミュージアムロード共同展

「道—On the Road 二つの道」

期間 平成27年7月18日～8月30日
来場者数 1、969人



ミニ展示「映画『華の乱』とニセコ」

期間 平成27年9月12日～10月31日

来場者数 3、196人

(4) 小ギャラリー

有島記念館若手作家展Ⅲ 平成の「生れ出づる悩み」2014展



期間 平成27年3月21日～6月7日
来場者数 1、866人

(3月31日までの入場者…174人、
4月1日以降の入場者…1、692人)

(5) 巡回展(当館が幹事館)

平成の「生れ出づる悩み」展 網走展
期間 平成27年6月27日～7月19日
会場 網走市立美術館

平成の「生れ出づる悩み」展 北海道
開拓の村展
期間 平成27年8月1日～8月31日
会場 北海道開拓の村

平成の「生れ出づる悩み」展 札幌芸
術の森展
期間 平成27年9月19日～11月3日
会場 札幌芸術の森旧有島邸

平成の「生れ出づる悩み」展 剣淵展
期間 平成27年12月17日～平成28年1
月17日

会場 けんぶち絵本の館

展示事業来場者(延べ人数)

25、905人

※平成27年度内で終了している展示事
業のみ

2、普及事業

※敬称略

第13回星座忌(共催事業)

日時 平成27年6月6日 13:00開始

参加者 125人

主催 土の香の会・ニセコ町教育委員

会・有島記念館

星座忌コンサート

能登谷安紀子ヴァイオリニスト

日時 平成27年6月6日 13:30開演

出演 能登谷安紀子(ヴァイオリニ

スト) 友清祐子(ピアノ)

参加者 125名



鯨島惇一郎講演会「北ぐにの草花と私」

日時 平成27年6月20日 13:00開始

出演 鯨島惇一郎(自然環境研究室主

宰)

参加者 26名

植物・産業遺産見学会「有島記念館周
辺の植物観察と有島灌漑溝を歩く」

日時 平成27年7月4日 13:00開始

講師 持田誠(浦幌町立博物館学芸員)、

梅田滋(コミュニティ研究所)、

伊藤大介(有島記念館主任学芸

員)

参加者 20名



「有島記念館周辺の植物を使った草木
染体験」



日時 平成27年7月18日 13:00開始

講師 田中富美江(自然ガイド)

参加者 16名

若手作家による美術講座 「透明水彩
で絵を描こう」

日時 平成27年8月8日 13:00開始

講師 松崎友哉(画家・キャラクター

デザイナー)

参加者 16名



映画「華の乱」フィルム上映会



日時 平成27年9月13日 13:00開始
場所 ニセコ町民センター
解説 伊藤大介(有島記念館主任学芸員)
参加者 86名

森雅之出演作品DVD上映会

「蟹工船」

日時 平成27年9月21日 13:00開始
解説 伊藤大介(有島記念館主任学芸員)
参加者 37名

森雅之出演作品DVD上映会

「燃える上海」

日時 平成27年9月21日 15:00開始
解説 伊藤大介(有島記念館主任学芸員)
参加者 30名

野瀬栄進ジャズピアノコンサート

日時 平成27年9月21日 18:30開始
出演 野瀬栄進(ジャズ・ピアニスト)
武石 聡(パーカッションニスト)
参加者 60名



Natukiプロスperl&ジャズコンサート
日時 平成27年10月31日 13:00開始
出演 Natuki (ゴスペルシンガー)
南山雅樹(ピアニスト)
参加者 111名



産業遺産見学会とトロッコ運転体験
日時 平成27年11月1日 13:00開始
場所 ニセコ駅構内転車台付近
解説 向田薫(NPO法人ニセコ倉庫邑)、伊藤大介(有島記念館主任学芸員)
参加者 43名



第27回有島武郎青少年公募絵画展表彰式
日時 平成27年11月3日 13:00開始
講評 佐藤光雄(全道展会員)
参加者 96名



入賞・入選者



佐藤光雄さんによる講評

晩秋の有島記念館コンサート2015
—後志出身の音楽家を招いて—
日時 平成27年11月21日 13:00開始
出演 安保奈苗(フルーティスト)
菊地志野(ピアニスト)
参加者 157名



講演会「ニセコ町の先史時代遺跡」
日時 平成27年12月6日 13:00開始
講師 高倉 純(北海道大学埋蔵文化財調査センター員)
鈴木建治(北海道大学国際本部)
参加者 17名



第16回宮山登山会

日時 平成28年3月12日 9:30開始
場所 有島記念公園及び宮山周辺
参加者 17名

駒澤千波・石垣涉ギャラリートーク
日時 平成28年3月21日 13:00開始
出演 駒澤千波(日本画家) 石垣涉(イラストレーター・水彩画家)



質問に答える駒澤千波さん

参加者 20名



作品解説をする石垣渉さん

朗読と音楽の調べ

日時 平成28年3月26日 13:00開演

出演 安藤千鶴子（音声表現講師・元

北海道放送アナウンサー）

金子岳櫻（薩摩琵琶奏者）

参加者

68名



普及事業参加者（延べ人数）

1,070人

展示・普及事業総利用者（延べ人数）

26,975人

3、マスコミにおける紹介

（1）新聞報道

○「きょう 有島のび星座忌コンサー
ト」

平成27年6月6日 北海道新聞朝刊

〔小樽・後志〕

○「あす鯨島悼一郎さんの講演会」

平成27年6月19日 北海道新聞朝刊

〔小樽・後志〕

○「あす学芸員が有島灌漑溝を紹介」

平成27年7月3日 北海道新聞朝刊

〔小樽・後志〕

○「有島記念館周辺産業遺産を見学」

平成27年7月5日 北海道新聞朝刊

〔小樽・後志〕

○「5美術・文学館 今年は「道」

主題 あすから管内共同展」

平成27年7月7日 北海道新聞朝刊

〔小樽・後志〕

○「有島記念館にブックカフェ 蔵書

200冊 1日開業 ニセコの専門店

店員常駐」

平成27年8月29日 北海道新聞朝刊

〔小樽・後志〕

○「緻密な植物画 エッセー添え・鯨島

さん個展が好評」

平成27年9月9日 北海道新聞朝刊

〔小樽・後志〕

○「ゆかりの映画上映会・有島記念館

13日「華の乱」21日「蟹工船」

平成27年9月10日 北海道新聞朝刊

〔小樽・後志〕

○「へ本の森ほっかいどう」文学館探訪

有島記念館 貴重な資料 作品と生涯

紹介」

平成27年9月27日 北海道新聞朝刊

〔全道版〕

○「来月1日に産業遺産見学会」

平成27年10月28日 北海道新聞朝刊

〔小樽・後志〕

○「有島賞に高見さん（札幌成高2年）

ニセコ 青少年絵画展入賞決まる」

平成27年10月29日 北海道新聞朝刊

〔全道版〕

○「第27回有島青少年絵画展を審査して

佐藤光雄 主張独創的かつ明確」

平成27年10月29日 北海道新聞夕刊

〔全道版〕

○「トロッコ乗って笑顔 産業遺産見学

会に30人 ニセコ」

平成27年7月7日 北海道新聞朝刊

〔小樽・後志〕

○「へ広角」わが街の文学館・記念館」

平成27年11月16日 産経新聞朝刊

○「後志出身の音楽家集い演奏会」

平成27年11月17日 北海道新聞朝刊

〔小樽・後志〕

○「へアート万華鏡」有島武郎「やちだも

の木立」都市化以前の札幌 緻密に」

平成27年11月30日 北海道新聞朝刊

〔全道版〕

○「ニセコ・駒澤千波展「そらのもり」

平成28年1月6日 毎日新聞朝刊

〔全道版〕

○「新感覚の和 外国人に人気・有島記

念館で若手日本画展」

平成28年1月19日 北海道新聞朝刊

〔小樽・後志〕

○「後志ゆかりの画家・作家認知度は」

平成28年1月22日 北海道新聞朝刊

〔小樽・後志〕

○「へラウンジ」木田金次郎美術館 有

島記念館 知名度アップへ提携 小説

平成28年2月2日 朝日新聞朝刊

〔全道版〕

○「へわが館自慢の一品65」有島武郎書

扁額「相互扶助」

平成28年2月2日 北海道新聞朝刊

〔小樽・後志〕

○「へ手帖」有島武郎の再評価へ文学館

が認知度調査を実施」

平成28年2月7日 産経新聞朝刊

〔全国版〕

○「ラジオリニセコ劇団 有島ゆかりドラ

マ完成」

平成28年3月8日 北海道新聞朝刊

〔小樽・後志〕

○「画家 創作の思い語る 有島記念館

作品展開催の2人」

平成28年3月29日 北海道新聞夕刊

〔小樽・後志〕

○「へ展覧会」有島記念館（後志管内ニ

セコ町）の若手作家展」

平成28年3月29日 北海道新聞夕刊

〔全道〕

○「有島武郎 木田金次郎 若者大半

「知りません」記念館・美術館 初の

共同調査」

平成28年3月30日 読売新聞朝刊

（2）ラジオ

○平成27年6月30日「旅ラジ！北海道ニ

セコ町」NHK第一・FM（全国）

○毎月第2、第4水曜日「有島記念館の

時間」ラジオリニセコ

（3）その他

○「へ広報ニセコ」連載「こんにちは有島
記念館です」平成27年4、10月号

平成27年度資料収蔵報告

(1) 寄贈

○佐藤さよ様(ニセコ町)より

「飼葉切り」「火鉢」各1点

この他、全国の文学館、美術館をはじめとする博物館施設や個人から、図録、年報、歌集など多くの資料寄贈を受けました。また当館ブックカフェに多数の書籍の寄贈を受けました。紙幅の都合上、本欄では割愛致しますが、厚く御礼申し上げます。

(2) 購入

○有島武郎自筆歌短冊

「しみじみと伏拝みけり病室のまじより見たる六尺の春 武郎」

収蔵資料紹介

○有島生馬 児島善三郎宛漢詩書幅

この作品は、有島武郎の弟で洋画家の有島生馬が1943(昭和18)年に唐代・賈島の漢詩を揮毫し、洋画家・児島善三郎に贈呈した書幅である。児島は福岡出身で、生馬が1913(大正2)年に創設に関与した「第二科美術展覧会(二科展)」に、1921(大正10)年の第8回二科美術展覧会から1930(昭和5)年の第17回二科会展まで出品した「1929(昭和4)年同会会員となる」。1931(昭和6)年、二科会を脱会し、独立美術協会創立メンバーとなる。生馬との関係はその後も継続し、1939(昭和14)年に児島や東郷青児ら生馬の影響を受けた画

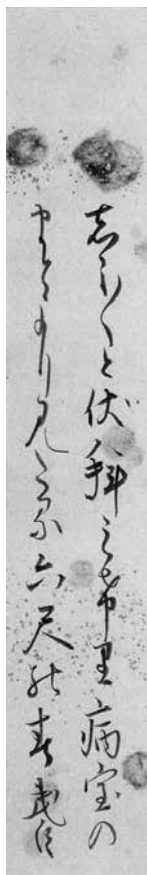
入澤そよ様(東京都・斎藤宏一様(旭川市)よりの「ニセコ町ふるさと基金(有島記念館向け使途)」を活用して以下の資料3点を購入させていただきました。心より感謝を申し上げます。

○「大正5年(推定)」10月1日

有島武郎 菅席雄宛書簡(封書巻紙墨筆)

○年不明12月26日

有島武郎 五来兌子宛書簡(巻紙「軸装」)



▲有島武郎自筆歌短冊

○年不明4月1日
有島武郎 宛先不明書簡(巻紙「軸装」)

以上の寄贈・購入資料については、適切な保存処理や資料自体の調査終了後、閲覧・公開に供します(一部、プライバシーに関わる資料に関しては、この限りではありません)。一部資料の詳細は、次号以降の館報「収蔵資料紹介」欄にて紹介する予定です。

家によって「黒門会」が結成され、展覧会の開催や生馬の画集出版などを行った。なお「黒門」とは東京麹町下六番町の有島家の黒の歌舞伎門に由来し、この作品も同地で揮毫されたことが記されている。

本作品は、児島善三郎の御令孫である児嶋敏郎氏(東京都国分寺市・児嶋画廊)が2012(平成24)年に岩内町・木田金次郎美術館で開催された「児島善三郎と木田金次郎 1893-1962」展に

来場の帰途、有島記念館にお立ち寄りいただき、寄贈のご意向を受け、平成25年度に受贈が実現したものである。今回の寄贈は、有島武郎と木田金次郎の芸術家同士の絆が、現代に取り持った不思議な縁ともいえる。ご寄贈を頂いた児嶋敏郎氏に心より感謝申し上げます。

松下

問童子

師採葉

去只在

山中

雲深不

知処

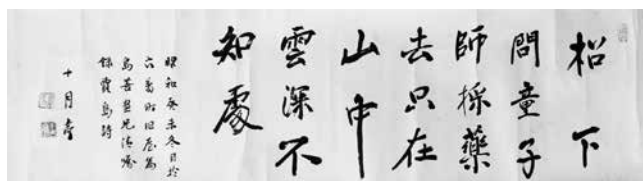
昭和癸未冬日於

六番町旧屋為

島善愚兄□囑

録賈島詩

十月亭



○「大正5年(推定)」10月1日
有島武郎 菅席雄宛書簡(封書巻紙墨筆)

明治期から昭和初期にかけてのドイツ語学者で、夏目漱石とも親交を結んだ菅席雄に対して、1916(大正5)年に没した有島武郎の妻・安子の遺稿集「松むし」を送付した際の添え状。

「大正5年(推定)」10月1日 有島武郎

菅席雄宛

表 相州鎌倉由井浜

菅席雄 様

侍史

消印 □□ 5. ? 1. 后2-3

裏 東京麹町区

下六番町一〇

有島武郎

十月一日認

消印 □□ 5. ? 1. 前0-9

拝呈前後分兼

候御疎音申上候

段平々御海容奉願候

兼病氣なりし

妻事

去る八月二日平塚

に於而死亡仕候就

而ハ同人病中ニ

書き散らしたる

遺文を集め「松

虫」と編し候間兼

ねての御同情二酔い

且

《次ページへ》

つハ貴下と同境
遇ニ入りたる小生之

貴下ニ対する同情

を表せん為め一冊

を机辺ニいたし申候

幸ニ御一読を賜

ハリ候ハ、幸甚ニ奉存候

時下秋冷折角

御自愛專一二奉折候

敬具

十月一日認

有島武郎

菅席雄 様

なお両資料の翻刻等には、有田政博氏
(北海道当別町在住)にご協力を頂きました。
感謝申し上げます。

「学芸部門活動報告

○伊藤大介「小樽・後志の昭和」(いき
出版・平成27年9月30日発行)の章扉
並びに写真解説の執筆

○「有島武郎認知度調査」の実施

(平成27年11月・木田金次郎美術館と
共同実施)

○伊藤大介「〈アート万華鏡〉有島武郎
「やちだもの木立」都市化以前の札幌
緻密に」

平成27年11月30日 北海道新聞朝刊
「全道版」

○伊藤大介「北海道大鉄道写真展」(札幌
駅総合開発株式会社など主催)にお
ける写真作品審査(平成27年12月)

○伊藤大介「〈わが館自慢の一品65〉有
島武郎書 扁額「相互扶助」」

平成28年2月2日 北海道新聞朝刊
「小樽・後志」

○伊藤大介「資料情報部に寄せて」

平成28年1月31日発行、全国文学館協
議会会報第64号

○伊藤大介「木田金次郎美術館とのおつ
きあいあれこれ」

『群暉』、平成28年1月15日発行

木田金次郎美術館「群暉」オフィス

○伊藤大介「有島武郎等の全国的な認知
度調査について」

『全国文学館協議会紀要第9号』平成
28年3月31日発行、全国文学館協議会

以上のほか、平成27年度までに受贈・購
入した資料に関する調査、企画展実施に
関する調査・研究などを実施しました。

「出版物等の発行

○図録「第27回有島武郎青少年公募絵画
展」

(平成27年10月31日発行)

○「有島記念館館報第15号」
(平成28年3月31日発行)

○「ニセコの歴史と文化をたどる道
—ニセコ エコミュージアム—」
(平成28年3月31日発行)

○「平成26年度追記」
図録「平成の「生れ出づる悩み」
2014」の編集

○「ニセコ町西富・富士見遺跡の旧石器
—再整理作業報告書—」刊行協力
(平成27年3月31日発行)

「作品・資料の貸し出し

○木田金次郎美術館への貸し出し

貸出作品…木田金次郎「春より夏にか
けて」(油彩作品)

貸出期間…平成27年4月1日～
平成28年3月31日

貸出目的…木田金次郎美術館主催展示
事業のため

○小川原脩記念美術館への貸し出し

貸出作品…有島武郎「羅馬古城壁」
(ペン画)

貸出期間…平成27年7月13日～8月31日
貸出目的…「しりべしミュージアムロ
ード共同展」出品のため

○北海道立近代美術館への貸し出し

貸出作品…高橋三太郎制作椅子1脚
貸出期間…平成27年8月10日～12月18日
貸出目的…「高橋三太郎展」出品のため

「平成27年度職員動向

▼採用 臨時職員

金沢 志乃「平成27年4月1日より」
田能村元仁「平成27年4月1日より」

「事務室だより

前述の通り、平成27年9月1日に有島
記念館のアートホールにブックカフェ
「有島記念館×高野珈琲店」がオープン
しました。注文を受けてから、自家焙煎
のコーヒー豆を挽き、羊蹄山の湧水で沸
かしたお湯を、店主の高野大一郎さんが
丁寧にハンドドリップされたコーヒーの
香り・少し酸味のある味わいは、とても

心地よいものです。「酸味のあるコーヒ
ーは少し敬遠される方が多いのですが、
一度試しにお飲み頂くと、リピーターに
なる方も意外に多いのです」と店主の方
から伺いました。最初は半信半疑だった
のですが、最近は酸味のあるコーヒーに、
はまっています。休憩時間に飲む一杯や
休日に自宅で豆を挽いて飲む一杯が、日
常の愉しみになりました。

このブックカフェには大きな窓があり、
右手に羊蹄山、左手にアンヌプリの両方
の山が程よい距離で見わたせる、良いビ
ューポイントになっています。当館観覧
後にご利用頂けましたら幸いです。当カ
フェオリジナルブレンドのコーヒー豆
「二房の葡萄」(葡萄のような果実感のあ
る酸味のあるテイスト)と「生まれ出づる
悩み」(コクやほろ苦さの奥に甘酸味のあ
るテイスト)も販売しております。ご来館
の記念にお土産にお勧めです。(T)

有島記念館

〒048-1531 北海道虻田郡ニセコ町字有島57番地

TEL 0136-44-3245 FAX 0136-55-8484

ホームページ [有島記念館](#) [検索](#)

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日休館)
ただし、夏期は月曜日でも開館する場合があります。当館ホーム
ページまたはお問い合わせ下さい。
年末年始

駐車場 自家用車用約30台・大型バス用約10台

常設展観覧料

一般500円、高校生100円、年間パスポート(発行日から
1年有効)大人800円、高校生200円

20名以上の団体は400円。中学生以下とニセコ町在住の65歳以上は無料。

交通アクセス

自家用車 札幌、新千歳空港より自家用車で約2時間
JR ニセコ駅より徒歩約30分(約2.5km)、タクシー5分
バス 道南バス[倶知安駅発]「有島記念館前」下車徒歩5分